

型の「守破離」より考える

片桐英数塾通信

河合サテライトネットワーク校
全統模試実施校
坂本教室 OFFICE
TEL 24-1337
FAX 82-6185
天神教室
TEL 23-1899
E-mail
info@katagirijuku.com

時代はどうあれ、やるべきことは多くない。
シンプルに立ち向かう！

「根気よく、何度も何度も
じゃー」「ええ、難しい
ことはせんでもええんじ
や。やさしくて薄い問題集
を何回も何回もするんぞ
〜！」

この言葉は、恐らく、今、
高校英語を受講している塾
生であったり、卒業生であ
ったり、その他多くの人が、
「隆先生がいつも口にして
る言葉だな」と気が付くか
と思います。隆先生、実は
まだ言ってますし、本人も
まだ根気よく英和辞典を
必ず持ち歩いています。た
まに「肩がこったが……」と
は言ってますが……

私自身の体験としても
この言葉は間違っていない
と断言できます。この言葉
を意識して取り組むと必ず
力が付きます。むしろ逆
に、この言葉以外に力をつ
ける方法を思いつきませ
ん。ただ、「根気よく」とか
「何度も何度も」を実行で
きる人が今は少数派になっ
てしまってるかもしれない
な、とか、今の時代に合っ
ていないと思われるかもし
れない、とか思ってしまう
すが、しかし、とにかくこ
れが物事に取り組む
基本姿勢だ
と思います。

いよいよ七月。夏が来ま
した。大きく成長するため
にも意識してこの言葉に取
り組んでほしいと思いま
す。

さて、二〇一八年夏。恐
らく、十年後、この片桐英
数塾通信二〇一八年七月
号を読み直している私は、
「ああ、こんな時代もあつた
よなあ」とシミジミと読み
返していると思います。「時
代の分岐点がちょうど今
だ」と、私の中の虫が知ら
せています。恐らく、十年
後は全く別世界になってい
ると思います。

変化の要因として様々な
ことが言われておりま
すが、今、私の頭の中の最
上位にあるのは「二〇一八
年問題」と呼ばれるもので
す。この問題は日本の十八
歳人口が減り始めるのが二
〇一八年頃からとされてい
て、それにより、大学は選
り好みさえしなければ受験
生全員が大学への進学が可
能となり、さらには、大学
によつては人が集まらず、
閉学を余儀なくされる大
学すら出てくるだろうとい
うものだと思われています。

全員が大学に進学でき
る。これを聞き何を思いま
すか？「何だ。それなら勉
強しなくても良いじゃない
か」と考えますか？ 実際、
入りやすくなると思いま
す。「それならそれで良いじ
やないか」と考えますか？
本当にそれで良いですか？

昔ほどでは
ないように
感じますが、
それでも
日本は
学歴が
モノを言う
社会だと
思います。

しかし、徐々に
徐々にそうではなくなつて
きているとも感じます。例
えば、入社してくる社員の
学歴と能力の相関が取れな
くなり、悩みを抱える上司
は増えていくとも聞いま
す。それでも、世間には学
歴により能力はある程度担
保されるという考えは残つ
ているわけですが、今後、全
入と呼ばれる状況に拍車が
かかり、学歴と能力との相
関が、さらにあいまいにな
ってきた場合、果たして就
職のための学歴として、大
学進学は意味をなすのだろ
うか……。もちろん、大学
と学問をすることで、であ
り、就職のためのものでは
ないのではないかと？との問
いを投げかける方がいらっ
しやったら、今、この話の流
れでは返答に困るのです
が……

あくまで私の個人的な考えな
のですが、これからの時代
は、全入という時代にな
り、全体的に緩みが生じて
しまうかもしれません。
しかしだからこそ、その分、
逆に力を付けておかなけれ
ばならなくなると思いま
す。いつの時代もそうだと
思うのですが、緩みに流れ

です。なので、高一で入塾
した子の学習の様子を見て
いて、三年後の受験の様子
が割と想像できてしまい、つ
いでに言ってしまうと、合格
しそうでどうかまで割と当
たります。余談でした。

ただ、簡単なことを何度
もコツコツだけやっていて良
いのか？とやうとそうでは
ありません。確実に基礎が
固まったなら、次の段階、つ
まり難易度の高い問題に向
かっていかなければなりま
せん。ただし、基礎をコツ
ツやるということは忘れて
はいけません。うまくミツク
スする必要があります。

高三生の夏。ちょうど基礎
から実戦への移行期になり
ます。ただ、基礎も固まっ
ていないのに次のステップに
行ってしまうはいけません。
焦ってはいけません、のん
びりしてもいけません。慌
ててもいけません、少しで
も速く進まなければなりま
せん。焦って慌ててしま
う、かえって遅くなってい
くこともあります。結局、コ
ツツ行くのが最速です。
日本の茶道、武道、芸術
に「守破離(しゅはり)」とい
う言葉があります。まずは
基本を「守る」。そして自分
に適する形を作るために基
本を「破る」。さらに、独
創的に自分を高めていくた
めに型を「離れる」という
のだそうです。

私もつい最近この言葉を
知ったのですが、これから成
長する人たちが物事と向き
合うためのとても大切な姿
勢を表す言葉ではないかと
思いました。
まず、時代がどうなるう
とも、今、中学生、高校生
のしなければならぬことは
基礎を固める(守る)こと
です。そのために、今はと
にかく「何度も何度も」「コ
ツツ」「繰り返し」です。派
手さなく基本的な学習で
す。今、何より
これが必要
です。

中学3年生夏期100時間特訓

7月21日(土)～8月31日(金) ☆中1・2年生対象夏特訓も実施！

集団授業と個別受講システムにより、基礎力の徹底・弱点補強をはかるとともに、応用発展問題にひるまない本物の力を養成します。さらに、受験生としての学習習慣を身につけられるよう指導します。香川県統一模擬試験も実施します。

※定員になり次第締め切らせていただきます。(詳しいスケジュールは直接お問い合わせください。)

～昨年100時間特訓を受講した先輩の感想～

今年も
やります!!

受講生募集中!

数学と英語の発展的な問題にチャレンジできて良かったです。映像授業では自分の苦手な教科と向き合うことができました。この夏特訓を通して自分が受験生だという自覚を強めることができました。(H. Yさん)

授業でも自習でも集中してできました。夏特訓に参加して、できるようになった問題が増えてうれしかったです。(S. Mさん)

授業がない日もできるだけ塾に来ました。頑張っているみんなを見て私も勉強しようという気持ちが高まりました。(T. Nさん)

夏休み前に分らなかったところが分かるようになったので良かったです。演習を繰り返しやって、解くのも早くなりました。(O. Nさん)

夏の100時間特訓に参加して、苦手をなくすことができました。充実した夏休みが過ぎて良かったです。(F. Fさん)

難しくて分からない問題もあきらめず最後まで考えることができるようになりました。苦手な教科もがんばり、自信ができました。(Y. Mさん)

高1生
高2生
高3生

夏期集中特訓

受講申し込み受付中!

お気軽にご相談ください。

片桐英数塾からのお知らせ

天神教室・坂本教室の7月のお休みは、
1日(日)、8日(日)、15日(日)、22日(日)、
29日(日)、30日(月)、31日(火)です。



お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

塾生の皆さんでLINE登録がまだの方は、こちらのQRコードを読み取り、名前を送信してください。映像授業の予約、変更や面談などの予約、欠席のご連絡などLINEでいつでも受け付けています。ご協力どうぞよろしくお願い致します。

